

平成 2 1 年度病害虫発生予報第 1 号

平成 2 1 年 4 月 3 日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	予 想 発 生 量
普通作物	イ ネ	苗立枯病 ばか苗病 イネシンガレセンチュウ	- 平 年 並 平 年 並	平 年 並 やや少ない 少ない
	オオムギ	赤かび病 うどんこ病 網斑病	やや早い - -	やや少ない 平 年 並 多 い
果 樹	ナ シ	黒斑病	やや早い	平 年 並
		黒星病	やや早い	やや多い
		赤星病	やや早い	平 年 並
		ハダニ類	やや早い	やや多い
		カメムシ類	やや早い	平 年 並
野 菜	ラッキョウ	灰色かび病	やや早い	やや多い
	スイカ、メロン、 タバコ	アブラムシ類	やや遅い	やや少ない

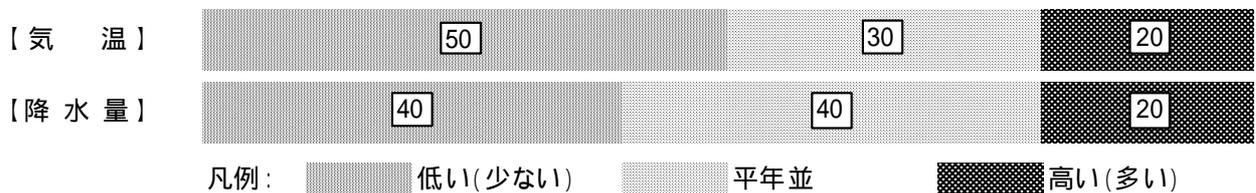
気象予報（抜粋）

1 か月予報（3月28日～4月27日：3月27日、広島地方気象台発表）

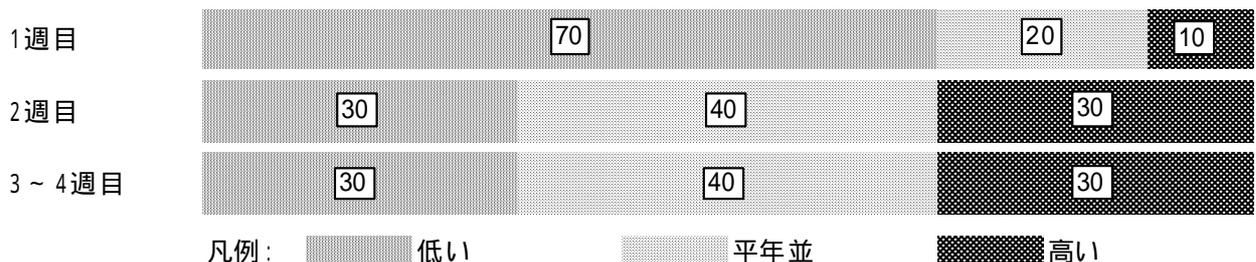
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わってでしょう。向こう1か月の気温は、低い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は低い確率70%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



普通作物

[イネ]

1 苗立枯病

(1) 予報の内容

発生地域 県下全域
発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 苗立枯病の予防防除が広く普及している。
イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。
イ 育苗環境を清潔に保ち、育苗中の温度管理及び水管理に注意する。
ウ ムレ苗が発生した場合には、タチガレエース液剤の500～1,000倍液
又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん
注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、
早めに本田に移植する。

2 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域 県内全域
発生時期 平年並(育苗期)
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子
を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種
を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜水の交換を行う。
エ 薬剤による種子消毒(浸漬処理)にあたっては、薬液がよく浸透するように
網袋にゆとりをもたせて、十分にかき混ぜる。また、薬液の温度が10以下
にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則
として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静
かに換水する。

3 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 少ない

(2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生は少なかったため、汚染籾率は低いもの
と推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので、注意する。

[ムギ(オオムギ)]

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生地域	県下全域
発生時期	やや早い
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

- ア 二条オオムギ、六条オオムギとも出穂期はやや早いと予想されている。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 六条オオムギは二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので、注意する。
- イ 発病後の防除は困難であるため、麦栽培指導指針などを参考にして薬剤による予防防除を行う。防除適期は、二条オオムギでは穂揃い期の10日後、六条オオムギでは穂揃い期及びその7～10日後である。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生地域	県下全域
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 4月2日現在、発生ほ場率は40.0%（平年値：39.0%）で、平年並の発生である。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 現在、防除が必要なほ場は認められていないが、葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発の恐れがあるので注意する。
- イ 麦栽培指導指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

3 網斑病（平成21年3月25日付、平成20年度病害虫発生予察注意報を発表）

(1) 予報の内容

発生地域	県下全域
発生量	多い

(2) 予報の根拠

- ア 4月2日現在、発生ほ場率は100%で、平年値（55.9%）を上回っている。
- イ ムギの茎数は平年に比べてやや多く推移している（二条オオムギ）。

ウ 向こう1か月の気象予報によると、今後の気象条件は本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉色が濃く、過繁茂のほ場では多発の恐れがあるので注意する。また、本病の発生が上位葉に拡大すると、登熟に影響し減収・品質低下を引き起こすことから、多発生が予想されるほ場では防除を徹底する。

イ 平成20年度麦栽培指導指針などを参考にして、病気が蔓延する前に薬剤防除を行う。防除は、チルト乳剤25(1,000倍)を使用し、薬剤散布にあたっては展着剤を加用する。

ウ 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、側枝上の枝病斑数及び短果枝の病芽率は0.2%(平年:0.2%)及び2.7%(平年:2.3%)とほぼ平年並であったが、病枝率は9.0%(平年:13.9%)と平年をやや下回った。

イ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量は平年並と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 開花前～人工交配終了後に、伝染源となる病芽の除去を徹底する。

イ 開花期に病原菌が雌しべに侵入することがあるので、開花前～人工交配直後の薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤は開花始めにジラム・チウラムフロアブル(ダイボルトフロアブル又はパルノックスフロアブル)500倍液又はチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル)500倍液、人工交配終了後にフロンサイドSC2,000倍液又はベルクガード水和剤500倍液、落花期に有機銅フロアブル(キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル)1,000倍液などを散布する。

2 黒星病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園(幸水及び豊水)における病芽率は2.0%(平年1.4%)で、越冬菌密度は平年をやや上回った。

イ 越冬伝染源からの胞子の飛散は3月下旬から始まっており、飛散開始時期はほぼ平年並であった。

ウ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量はやや多いと見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア りん片の脱落の悪い腋花芽は芽基部病斑を形成しやすく、本病の伝染源となるので、これらを開花始め～落花期に見回って切り取っておく。

イ 開花期に降雨が続くと多発しやすいので、開花前～落花期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル1,500倍液、落花期にE B I水和剤(スコア顆粒水和剤又はマネージ水和剤)4,000倍とジラム・チウラムフロアブル(ダイボルトフロアブル又はパルノックスフロアブル)500倍又はチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル)500倍の混用液などを散布する。

3 赤星病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場のビヤクシン上における冬胞子堆の形成量はほぼ平年並であった。

イ 4月1日現在、伝染源となるビヤクシン上の冬胞子堆の膨潤は確認されていない。

ウ 近年、住宅の生け垣などにビヤクシン類が多く使われているため、住宅地に近いナシ園では本病の発生がやや目立っている。

エ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ビヤクシン類が果樹園に近く、4月中～下旬に雨が多い場合、発病しやすくなるので注意する。

イ 冬胞子堆の膨潤と小生子の飛散最盛期は、例年、満開前後の降雨直後となるので、この時期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は開花始めにアンビルフロアブル1,500倍液、落花期にE B I水和剤(スコア顆粒水和剤又はマネージ水和剤)4,000倍とジラム・チウラムフロアブル(ダイボルトフロアブル又はパルノックスフロアブル)500倍又はチウラムフロアブル(トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル)500倍との混用液などを散布する。

エ 5月以降に葉の発病がみられるときは、E B I剤(スコア顆粒水和剤4,000倍液、マネージ水和剤4,000倍液及びアンビルフロアブル1,500倍液など)を追加散布する。

4 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるクワオオハダニの越冬卵数は平年と比較して多く、過去10年間で最も高い越冬密度となっている。一方、カンザワハダニ及びナミハダニの越冬密度は平年と比較してやや少なかった。

イ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 蕾や葉に発生が認められた場合は、開花始めまでにカネマイトフロアブル1,500倍液などを単用散布する。

イ ハダニの発生が多く認められる園では、薬液が葉裏によくかかるように丁寧に散布する。

ウ 一部のほ場では、クワオオハダニの越冬卵が多数認められている。そのようなほ場では、越冬期防除を実施している場合でも観察を怠らないようにする。なお、観察時期は、本種越冬卵のふ化初め～最盛期と見込まれる4月第3～5半旬を目安とする。

5 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数(簡易小屋トラップ)は、トラップ当たり3.0頭(平年:8.2頭)と平年と比較してやや少なかった。

イ ナシの開花時期は早いと予想されており、春季におけるナシ園への成虫の飛来時期は、やや早い4月中旬～5月上旬頃と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ ナシ園への飛来が認められた場合は、直ちにジノテフラン水溶剤(アルバリオン又はスタークル顆粒水溶剤)2,000倍液などを追加散布する。

野 菜

[ラッキョウ]

1 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 本病の初発生時期は、平年よりやや早い2月下旬であった。

イ 3月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は県東部で平年に比べて多い。

ウ 本病は4月の気温が高く、5月に低温多雨の条件で発生が増加しやすい。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 4月下旬まで以下の薬剤を輪番に散布する。薬剤はダコニール1000の1,000倍液、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタストライフロアブル1,500倍液などを使用する。

イ 降雨後には、枯れた葉上に多数の分生胞子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

[スイカ、メロン、タバコ]

1 アブラムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場(東伯郡北栄町、露地ほ場)における黄色水盤への有翅虫の初飛来は、4月1日現在確認されていない。

イ 向こう1か月の気象予報によると、発生時期がやや遅れ、それに伴い発生量はやや少なくなると予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気部分や出入口には寒冷紗被覆を行い、アブラムシ類の侵入防止に努める。

イ 葉裏を注意して観察し、初期防除を徹底する。

ウ スイカにおいて、ハウス栽培では交配前にミツバチへの影響のないチェス水和剤3,000倍液を散布する。トンネル栽培ではつる引き誘引時期に、チェス水和剤3,000倍液を、交配前にバリアード顆粒水和剤2,000~4,000倍液を散布する。

メロンでは、チェス水和剤2,000~3,000倍液、バリアード顆粒水和剤4,000倍、モスピラン水溶剤8,000倍液などを散布する。

エ タバコの近隣にジャガイモを栽培している場合は、タバコ黄斑えそ病の伝染源となるので掘り残しイモをすべて除去する。また、ジャガイモやタバコを透明寒冷紗などにより被覆栽培するなどして本病の伝染を防ぐ。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます（<http://www.famic.go.jp/>）。

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守しましょう。

周辺への飛散には充分注意しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回の予報発表は、平成 21 年 4 月 23 日（木）の予定です。